



株式会社テクノ・インテグレーション(ティグ)ご紹介

「もの創り」時代の開発・新事業の具体的実践;提案型コンサルティングファーム

(2010. 3. 1版)

【設立経緯と概要】

産業活性力の源泉は技術・技術者にあり、この現実的なソリューションは新規事業創出ツールのなかにあります。例えば、研究開発テーマの事業化移行、異分野・産学のアライアンス、社内外ベンチャー起業、イノベーションのプロジェクトマネジメント、ロードマップ・ビジネスプラン立案等を効率的に行うことです。この観点で、2004年3月1日に専門家3名を中心に(株)テクノ・インテグレーション(TIG)を設立し、多くの実績を積んで7年目にはいりました。

【会社概要】

会社名 株式会社 テクノ・インテグレーション(略称:TIG、ティグ)
所在地 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目19番13-2207
代表取締役 出川 通、取締役 本間 孝治、加藤 洋史
TEL: 03-3492-1220, FAX:03-3779-0037
E-mail: degawa@techno-ig.com、URL: <http://www.techno-ig.com>

【業務案内】

1. 新規事業製品の研究開発及び、事業化プロジェクト・マネジメントの現場コンサルティング
・企業内起業(コーポレートベンチャー)、開発型ベンチャー立ち上げ支援、連携
2. 研究開発テーマ、事業開発テーマの戦略的分析・評価によるコンサルティング
・新規、または既存の事業探索テーマのポートフォリオ分析による可視化、共有化
3. 先端技術の事業化へのロードマップ、ビジネスプラン作成、戦略的コンサルティング
・技術ロードマップ、事業・製品ロードマップの統合による関連づけ、可視化・共有化
4. 異分野にかかわる研究・開発・事業展開への戦略立案コンサルティング
・人的、資金、技術的戦略全般、知的財産権の取得・評価、産官学連携、技術移転、
5. 研究開発部門、新事業部門人材の事業化展開(MOT、イノベーション)研修・セミナー企画・実施
・短期(1時間から1-2日)、中期(4-6日)、長期(半年以上)など多くの実績有

【業務実績・経験:TIG=ビジネス、経営と技術の融合・統合コンサルティング】

- 1) 新規事業としての企業内起業、コーポレートベンチャーなど立ち上げ企画・支援:50件以上
- 2) 大手製造業の研究開発・事業化案件の探索・評価・選定(ロードマップ、BP化)展開:30件以上
- 2) 中小・中堅企業の第二創業、ベンチャーなどの新規展開支援:25社以上
- 4) 技術・事業性評価委員:経産省、文科省、NEDO、JST、特許庁、自治体などのアドバイザー・技術評価委員など20件以上
- 5) 同上にかかわるセミナー、講演、講義、企業内研修など年間50回程度実施中

【技術ネットワーク:TIG=技術の融合・統合】

- 1) 半導体・液晶(FPD)・バイオなどのハード・ソフト系技術・産業分野
- 2) マイクロ・ナノ・MEMSなどの先端融合技術・産業分野
- 3) 基盤・成熟技術分野:表面処理などの各種加工、特殊材料分野のハイテク事業開発分野

【代表者（出川）・パートナー（本間、加藤）のバックグラウンド】

1974年東北大学大学院専攻終了。工学博士。大手重工メーカー（三井造船）にて、30年近くにわたり、いくつかの新規事業を産学連携や日米のベンチャー企業と共同で企画段階から立ち上げ、事業化を成功させた。専門は実践MOT（技術経営）とマクロからナノまでの材料加工プロセス、商品開発。

2004年に株式会社テクノ・インテグレーションを設立、代表取締役社長として、技術経営（MOT）やイノベーションのマネジメント手法を用いて開発・事業化のコンサルティングや研修を企業向けに行う。また、いくつものベンチャー創業も行い複数の中小・ベンチャー企業役員を兼任。

併任として早稲田大学・東北大学・島根大学・大分大学・香川大学などの客員教授や名古屋大学・横浜国立大学非常勤講師などで学生、社会人、経営者に実践MOTを講義すると共にNEDO、JST各種評価委員、技術者教育関係団体の理事など多くの役職に就任。

パートナーの本間は20年の半導体エレクトロニクス業界での装置開発の実績のあるケミトロニクス代表、また加藤は10数年の海外の先端技術・製品の導入・輸入販売の実績のあるジェイテック代表でもあり、これらのネットワークをフルに利用した、新しい事業展開の創造が可能。

【著書】（最近のイノベーション、MOT、研究開発関連本）

- ・「技術経営の考え方：MOTと開発ベンチャーの現場から」（光文社新書、2004刊）
- ・「図解最新MOT（技術経営）がわかる本」（秀和システム2005年刊）
- ・同上改訂増補版『図解入門ビジネス 最新MOT（技術経営の基本と実践がよ〜くわかる本』（秀和システム、2009年刊）
- ・「新事業創出のすすめ」（オプトロニクス社、2006年刊）
- ・「図解 独立・起業、成功プログラム」（秀和システム2007年刊）
- ・「理科少年が仕事を変える、会社を救う」（彩流社、2008年刊）。
- ・「技術とイノベーションの戦略的マネジメント 上・下」監修、（翔泳社、2008年刊）
- ・「【検証】東北大学・江刺研究室 最強の秘密」共著、（彩流社、2009年刊）
- ・「産業革新の源泉—ベンチャー企業が駆動するイノベーション・エコシステム」共著、（白桃書房、2009年刊）など

【講演・セミナー題目の例】（2008-9年度の実施例の一部）

- (1) 研究開発者のための技術ロードマップ作成とその活用—新事業につながる統合化の考え方と実践事例紹介
- (2) 儲けるMOT（技術経営）：技術とマーケットからのテーマの探索と事業性評価
- (3) 研究開発・企画者に必要なマーケティング技術と活用方法—見えないマーケットを明確にし、新事業につなげる手法の解説と演習
- (4) 成功する研究開発者のためのビジネスプランニング入門と実践—初歩から理解する研究開発成果の事業化構想の考え方と実践手法
- (5) イノベーションを起こす技術系人材とは—理科少年が仕事を変える、会社を救う
- (6) 開発・事業化プロジェクト・マネジメントと人材適材適所の実践
- (5) 技術・イノベーションの戦略的マネジメント—企業内での新規事業創出の事例紹介とメカニズム
- (6) 研究開発における産学連携の成功ポイント
- (8) 日本のベンチャー企業のケーススタディとスタートアップマネジメント
- (7) 技術者・企画者のための知財・アライアンス戦略の基礎と実践
- (8) R&Dの障害「死の谷」を越えるための新事業の上手な立ち上げ方とその実践
- (11) 最新技術経営(MOT)の考え方 ~モノ創りへの基礎と実践~
- (12) 最新の実践MOT(技術経営):技術ロードマップ策定と研究開発の事業性評価
- (13) イノベーション時代の技術者・経営者の実践~新事業を成功させるMOT(技術経営)の方法論と実践紹介
- (14) ものづくり企業の付加価値化・高収益化について—最新MOT(技術経営)の中小製造業への応用事例
- (15) ベンチャー企業における「日本型死の谷」の考察~ベンチャー経営と政策—最新MOTの現場とイノベーションのマネジメント

・その他多数あります、遠慮なくメールでお問い合わせください。